

中経手帖

東京五輪の代表に内定した選手に直接取材できる貴重な機会に恵まれた。男子ホッケー日本代表に選出された、吉川貴史選手と永井祐真選手に、現在の心境などを聞くことができた▼吉川選手は、ビルや工場の清掃・メンテナンスなどを手掛ける中日コプロ（名古屋市）に所属。永井選手は、グループで物流サービス事業を担うホンダロジコム（春日井市）に所属している。意気込みを語る2人に共通するのが、会社に対する感謝の姿勢だった▼ゴールキーパーの吉川選手は「これまでサポートしてくれた社員の皆さんに、体を張ったプレーを見ていただきたい」と語った。ミッドフィルダーの永井選手は「（練習に専念できる環境を整えてくれるなど）サポートの手厚い会社は他にない。感謝の気持ちを持つてプレーしたい」と力を込めた▼もっとも、大舞台への参加権を得ただけでは満足していない。選手の2人は「ホッケーという競技を日本で有名にするためにも結果を出したい。勝つて笑つて終わりたい」と必勝を誓つた▼東京五輪開催が予定される7月にいよいよ突入する。主役はもちろん選手だが、その活躍をサポートする企業の努力を伝えるのは本紙の役目もある。選手らを支える中部企業の熱意を伝えたい。